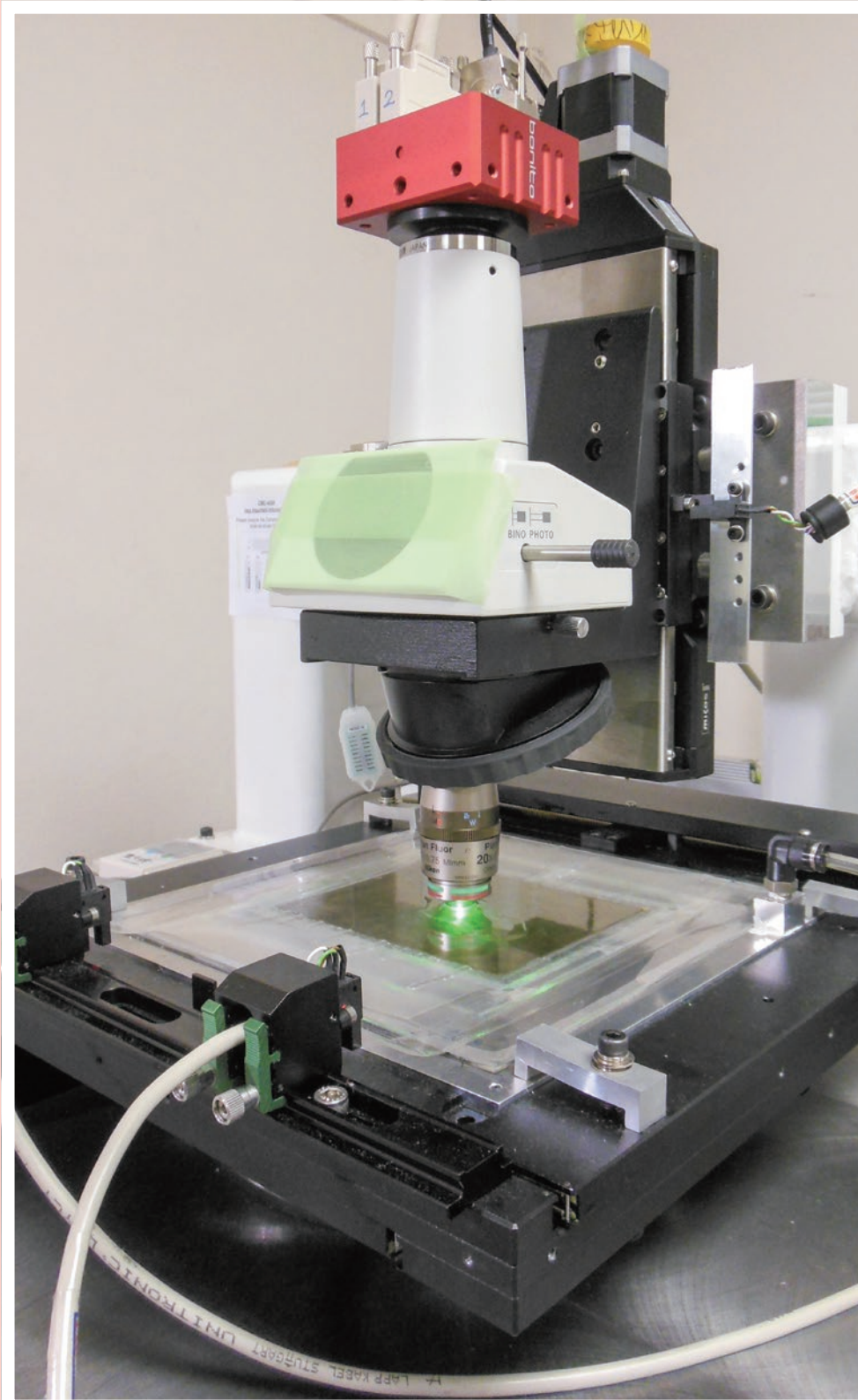


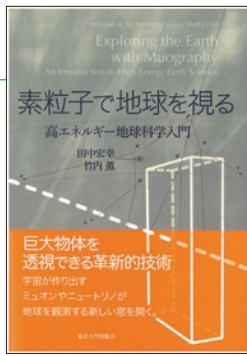
特集

写真フィルムで

ミューオンを捉える

— デジタル全盛の中で光るアナログ検出器





教科書刊行

2014年5月8日に東京大学出版会より、『素粒子で地球を視る 高エネルギー地球科学入門』(田中宏幸・竹内薫 著)が出版されました。高校生から大学院生までの読者を想定し、丁寧に解説しています。帯に書かれたキャッチコピーは「宇宙が作り出すミュオンやニュートリノが地球を観測する新しい窓を開く」。ぜひ、ご一読ください。

シンポジウム

田中宏幸教授が、2014年4月28日～5月2日開催の日本地球惑星科学連合(JPGU)連合大会において、国際セッション「Particle Geophysics」のコンピナーを務めました。

大学院進学の見学相談

地震研究所CHEERの研究室・研究設備を用いて、東京大学の大学院生として高エネルギー素粒子地球物理学の研究を行うことができます。CHEERの教員は理学系研究科の大学院指導教員として、指導に当たります。

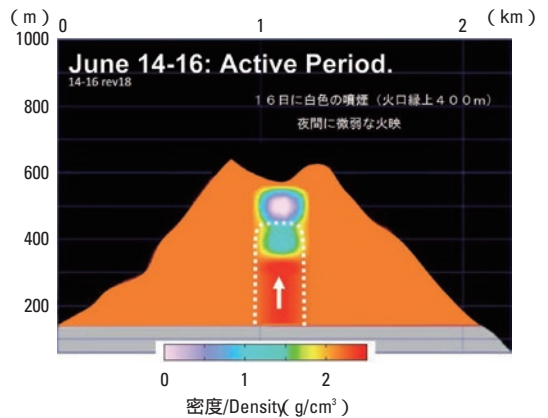
研究室の見学、およびCHEER在籍の大学院生との面談も可能です。本ページ左下に記載されている広報担当まで、メールで申し込んでください。夏休みのオープンキャンパス・一般公開(2014年8月6～7日)などの時期もご活用ください。CHEERは、伸び盛りのあなたを待っています!

大学院生の論文掲載

「ミュオン透視と重力観測を統合して、火山内部の3D画像を得る」(原題: Integrated processing of muon radiography and gravity anomaly data toward the realization of high-resolution 3-D density

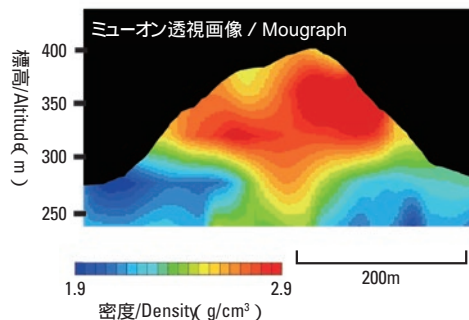
論文掲載

田中宏幸教授らの論文「噴火中の火山内部のマグマの動きを透視する」(原題: Radiographic visualization of magma dynamics in an erupting volcano)が、『Nature Communications』誌に掲載されました。噴火を続ける薩摩硫黄島火山の内部を3日ごとに透視し、マグマの昇降・対流の様子を目に見える形で示しました。なお、同誌は『Nature』の姉妹誌ですが、冊子体のないオンラインジャーナルです。次のWEBサイトから、どなたでもお読みになれます。http://www.nature.com/ncomms/2014/140310/ncomms4381/full/ncomms4381.html

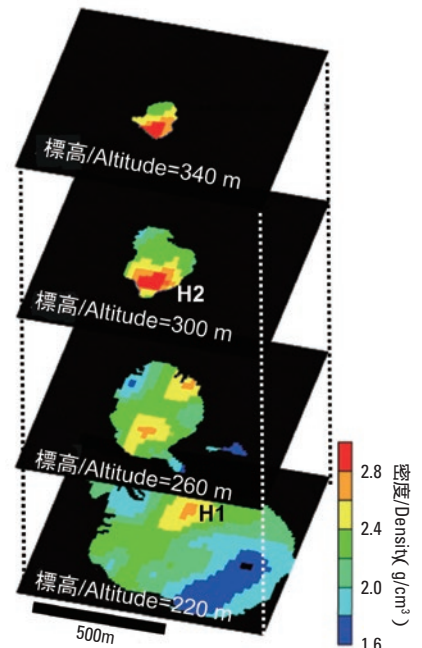


structural analysis of volcanoes)」が、『Journal of Geophysical Research』誌(119巻1号、699-710頁、2014年)に掲載されました。筆頭著者は大学院生の西山竜一です(CHEER news No.2で紹介)。

昭和新山の2次元像
2D Image of Showa-shinzan



昭和新山の3次元像
3D Image of Showa-shinzan



CHEER news
第5号

2014年5月発行

発行者
東京大学地震研究所
高エネルギー素粒子
地球物理学研究センター

制作協力
フォントクリエイト
(デザイン: 酒井デザイン室)

問い合わせ先
〒113-0032
東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所
高エネルギー素粒子
地球物理学研究センター
広報担当

Eメール
Koho-cheer@eri.u-tokyo.ac.jp
ホームページ
http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/
CHEER

「宇宙線ミュオンやニュートリノ等の高エネルギー素粒子を用いた、火山などの巨大物体の透視」という革新的技術を核に、組織的・有機的な理工学の研究開発及び若手研究者の育成を進める。

高エネルギー素粒子地球物理学研究センター(CHEER)のミッション